

親鸞さまの

【本文】

罪福信ずる行者は

仏智の不思議をうたがひて

疑城胎宮にとどまれば

三 宝にはなれたてまつる

【意記】

自分の為した罪に囚われ 自分の為した善に囚われる人は

詮ずると仏様のお救いをたよりとしていない人です。

何故なら 自分という殻の中に閉じこもっているからです。その様子は例えるならば何重にも囲まれた宮殿にいるようであり、母の胎内にいるようでもあります。

自ら閉じこもっている為に、仏様とその教え、またその教えを共にする人々とも出会ふことができせん。

【私の味わい】

ある音楽教室で、こんなやり取りがあったそうです。先生が生徒、社会人にレッスンにあちて、上達のために必要なことを一通り説明しました。しかし、生徒はいや先生、そうは仰ますが、インターネットではそう書いてありませんでしたと反論し自説をととうと述べたそうです。先生はそれを聞かれ、「一体何のための対面レッスンなんだろう。その人の為に最適な方法を提示したのに・・・」と言われていたそうです。阿弥陀様は、私達のために最も平易で最適な往生成仏の道をお示し下さっています。南無阿弥陀仏この阿弥陀仏を人生の拠り所になさむ、というお心を聞き信じてお念仏をするこの至てシンプルな道をです。特に厳しい何かが課されているわけでもなく、老若男女誰もができることなのです。

しかし、この仏様のお心に対していや、仏様、そうは仰いますが・・・と言ったり胸中に思うとすればどうでしょう。趣味のレッスン程度であれば上達できなぐらひの話で済むかもしれませんが、事は自らが往生できるか、成仏できるかの話です。

お経には、お浄土は大変行きやすい所であると説かれています。何故なら阿弥陀様のお陰だからです。しかし一方、実際に往く人は極めて少ないとも説かれています。何故なら、そのお陰を大事にする、時間を作って法話を聞くなど、人が少なく、往生浄土の道よりも我が道を行く人が多からなのです。折角の阿弥陀様のお心を大切に聞き、お念仏する人生でありたいものです。